

吾妻山の火山活動解説資料

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続＞

昨日（22日）20時頃から、監視カメラで大穴火口付近が明るく見える現象を確認しました。この現象は、本日（23日）実施した現地調査で、大穴火口内での硫黄の燃焼によるものと確認されました。

大穴火口周辺では硫黄の燃焼により高濃度の火山ガス（二酸化硫黄）が発生しているおそれがあるため注意してください。また、大穴火口付近では熱活動が継続しており、噴出現象が突発的に発生する可能性があることに留意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 今回の活動概況

昨日（22日）20時頃から本日（23日）03時半頃にかけて、高感度の監視カメラによる観測で、大穴火口付近が明るく見える現象を確認しました。この現象の前後で火山性地震の増加や火山性微動は観測されず、地殻変動及び空振データにも特段の変化はありませんでした。大穴火口付近が明るく見える現象が観測されたのは、2011年11月以来です。大穴火口の噴気の高さに特段の変化は認められません。

本日（23日）実施した現地調査では、大穴火口内で泥状硫黄の流出と、硫黄の燃焼に伴う青白い煙を確認しました。硫黄の燃焼がみられた噴気孔周辺以外では、地熱域の大きな変化は認められませんでした。

○ 活動評価

昨日から火口付近が明るく見える現象が観測されているものの、地震活動や地殻変動に変化は認められず、火山活動に大きな変化はないと考えられます。

一方、大穴火口周辺では高濃度の火山ガス（二酸化硫黄）が発生しているおそれがあるため、注意が必要です。また、大穴火口付近では熱活動が継続しており、噴出現象が突発的に発生する可能性があることに留意してください。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。



図1 吾妻山 大穴火口付近が明るく見える現象

(2020年7月22日23時00分及び2011年9月8日01時42分)

- ・上野寺監視カメラ（大穴火口から東北東約14km）の映像です。
- ・赤丸内の明るい部分が、高感度の監視カメラで大穴火口付近が明るく見える現象です。

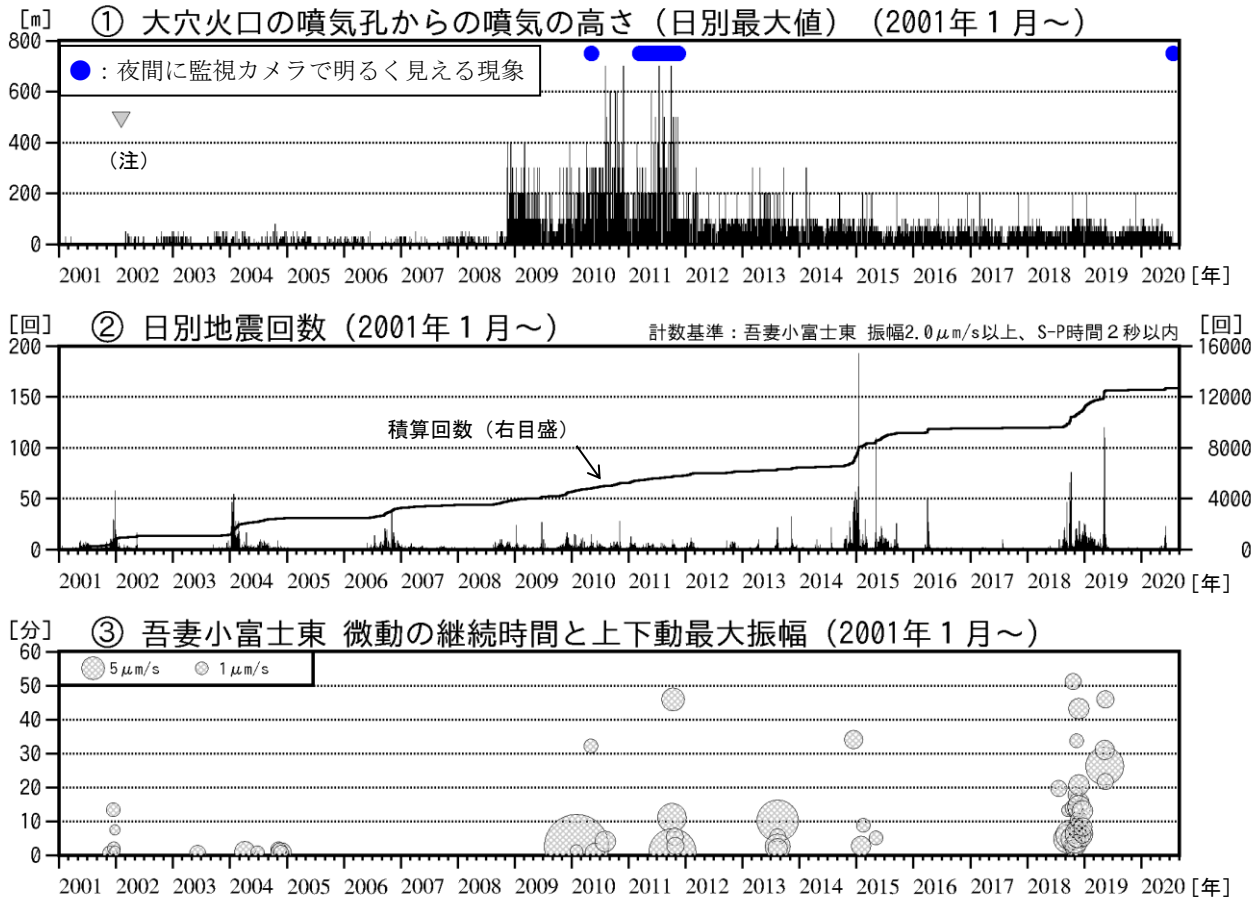


図2 吾妻山 火山活動経過図（2001年1月～2020年7月22日）

注) 2002年2月以前は定時(09時、15時)及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。

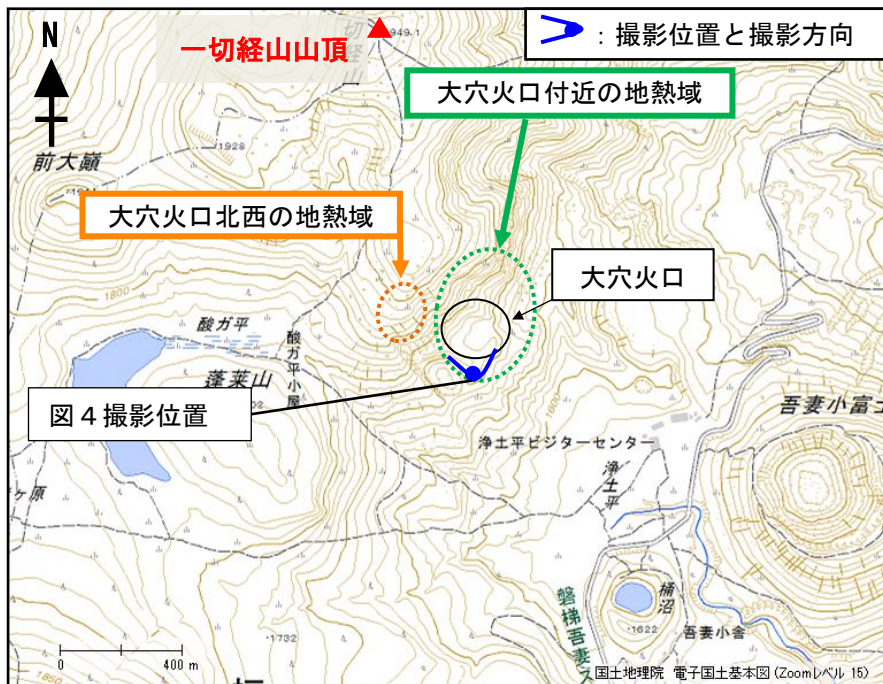


図3 吾妻山 大穴火口周辺の地熱域の分布及び写真と地表面温度分布撮影方向

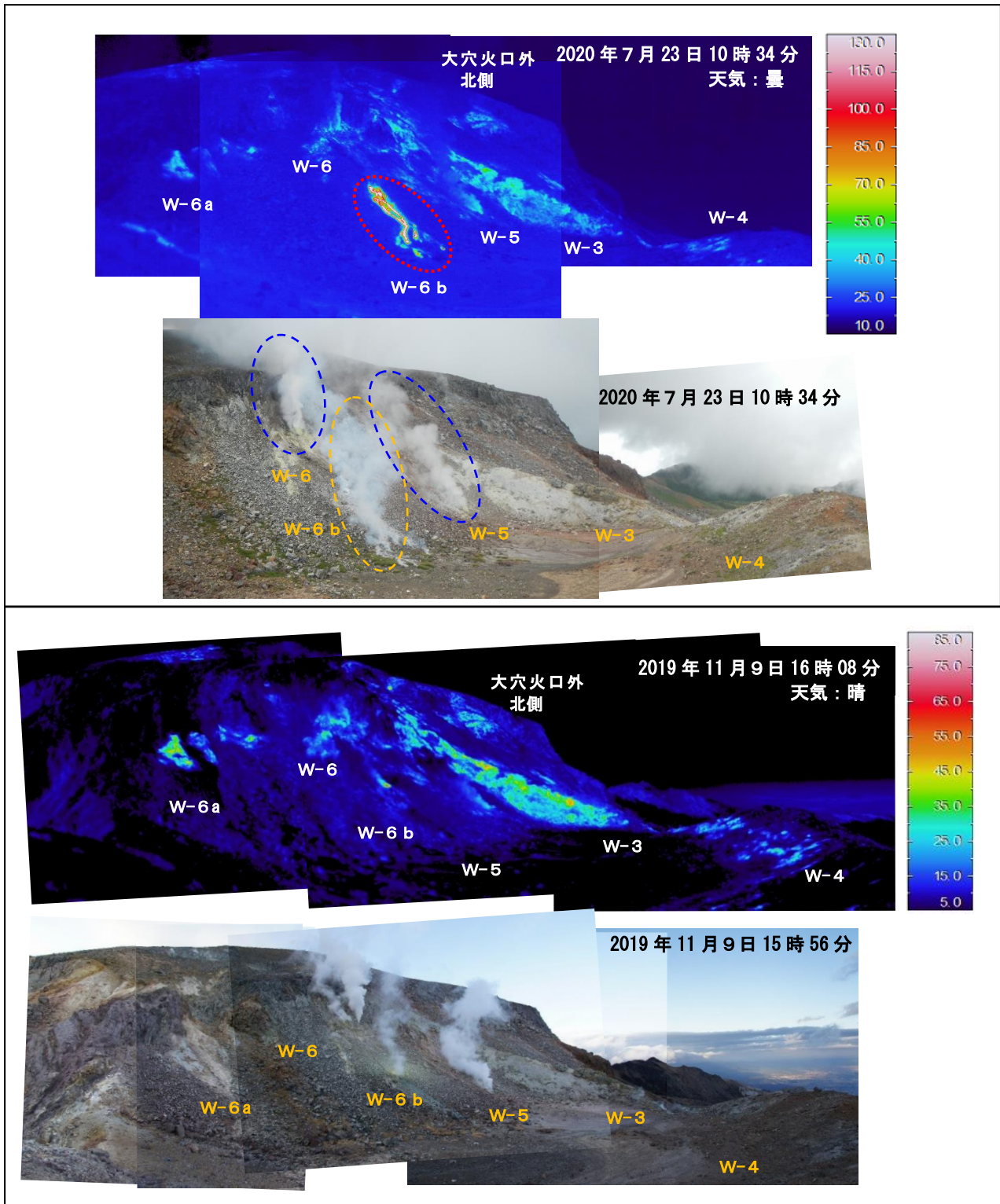


図4 吾妻山 大穴火口付近及びその周辺の状況（下）と地表面温度分布（上）

- ・ W-6b では硫黄の燃焼による高温域（赤破線）が認められました。また、硫黄の燃焼に伴う青白い煙（橙破線）を確認しました。その他の領域の地熱域に大きな変化は認められず、W-5 及び W-6 の噴気（青破線）に特段の変化はありません。